

あなやま

社会福祉法人 信和会

〒407-0263

山梨県韮崎市穴山町 5164

TEL 0551-25-5900

FAX 0551-25-5906

<http://www.sip-shinwakai.jp>

編集責任者 栗原 信



紫陽花

～穴山町次第窪～



歌人 伊藤生更^{せいこう}

伊藤まなみ (甲府市)

私の祖父・伊藤生更の葬儀が営まれたのは、昭和47年7月の暑い日であった。88歳で亡くなったので、ロウソクの火が消えるような静かな最期だった。門人の女流歌人が「お別れのことば」を述べていた。生更が生前詠んだ歌も読みあげられた。その中の一首だけが、何故か、強く印象に残っている。

抱(かか)へ切れぬ程に束ねて膝に在り
高原の花揺れて汽車発つ

特急電車が音もなく滑るように発車するようになったのは、いつ頃だったのだろうか。この歌が作られた頃は、汽車は「ガタン」と音を立て大きく揺れてから発車していたのである。生更の代表歌でもないから私は知る由もなかった。それでも花に埋もれた祭壇の前で黄泉(よみ)の国へと旅立つ者に語りかけた言葉としては、まことに相応しく思われた。私は祖父の年老いた姿しか知らない。こんな甘やかな歌を詠んだ時もあったのかと驚いた。後で調べたら、この歌は私が生まれる以前、門人と野辺山(小海線)に吟行(ぎんこう)に行った時の歌であった。気の毒なくらい涙を堪(こら)えて読みあげた歌は、女流歌人にとって「思い出」の歌であったのであろう。

伊藤生更は、明治17年、穴山村伊藤窪に生まれた。明治41年に甲府に転居。山梨師範学校の教師をしていた頃、斎藤茂吉の歌に感銘を受け「アララギ」に入会した。昭和10年には短歌結社「美知思波」(みちしば)を創刊・主宰する。昭和40年頃には、会員数は500名を超えるまでに発展した。生更死後には、多くの門人が山梨県短歌界を牽引するような指導的の歌人となっている。

生更の母親は、昭和17年に亡くなっているが、子供たちが独立した後は穴山で一人暮らしをしていた。その間、生更は何回も穴山を訪ねた。

- ・ 行き過ぎて我が振り返るその人もまた振り返る
ふる里の路
- ・ 耳遠き母との話ちぐはぐに時には声を立てて笑へり
- ・ 座布団を枕に我は寝ころびて母が炊く火の炎まもれり

穴山で過ごした幼少期を思い出して作った歌もある。

草を負へる我の姿を遠く見て
廚(くりや)の馬はいななきにけり

この歌を読んだ時、やはり昔は馬と一緒に暮らしていたんだ、と得心した。なぜならば、生更の妹の権藤はなよ(たなばたさま作詞者)の童謡詩の一節が、馬に寄せた労(いたわ)りの想いに満ちていたからである。

雪こんこお馬 冷たくないの
お馬よ急げ 雪こんこ積もる

玄関の木戸を開けると土間には馬屋があった。馬も家族の一員として生活を支えていた時代であった。

最後に生更の詠んだ短歌の中から七首だけ掲出してみたい。私は短歌の良し悪しは、わからぬ門外漢である。だから「私の好きな歌」というような曖昧な選び方にすぎない。歌人も詩人も作品が、その人の命である。作品の内から生更の人となりを知りたいのが、本人の望むところだと思う。

- ・ 茅が根の長き裾野に重なりて
八が岳見ゆ信濃の空に
- ・ 上体をやや南(みんなみ)に傾けて
動き出(い)ださむとする駒ヶ岳
- ・ 蕎麦(そば)を待つ部屋の裏庭かげりきて
また陽があたる山百合の花
- ・ 一筋の光となりて釜無は
国の平(たいら)を二(ふた)わけになす
- ・ 木瓜(ぼけ)の花土に縫(すが)りて咲きさかる
土手しばらくは続くくれなる
- ・ 小さきは小さき儘(まま)に位置ありて
此(こ)の川原の限りなき石
- ・ 南(みなんみ)の空に一つの雲ありて
静かに富士の峯に近づく

信和会の皆様には心から感謝申し上げつつペンを置く。

本部だより

社会福祉法人 信和会 法人本部
 〒407-0263 韮崎市穴山町 5390
 TEL0551-25-6100
 E-mail: honbu@sip-shinwakai.jp



理事会・評議委員会報告

開催日：平成26年5月24日（土）

開催場所：穴山の杜 集会室

審議次項：第1号議案 平成25年度事業報告について
 第2号議案 平成25年度決算報告について
 第3号議案 監事監査報告について
 第4号議案 新規事業計画に伴う地質調査並びに基本設計について
 第5号議案 その他



平成26年度になり第1回目の理事・評議員会が開催されました。
 平成25年度の法人、各事業所の事業報告、平成25年度の決算報告及び、会計監事による監査報告があり、全て御承認を頂きました。

平成25年度から新たに取り入れた新会計基準に基づく初めての決算報告ではありましたが、問題なく報告する事が出来ました。

社会福祉を取り巻く法改正も徐々に行われ共同生活事業所の事業名称も再編され外部サービス利用型並びに介護サービス包括型の二本立てとなり事業を展開しております。法人の役員・職員一丸となり、各事業所、すべての利用者にご満足いただけるサービス提供を追求して参りたいと考えております。

平成25年度 決算報告

貸借対照表

単位千円

流動資産	545,117	流動負債	95,446
基本財産	743,693	固定負債	311,674
固定資産	491,750	負債の部合計	407,120
		基本金	226,533
		国庫補助特別積立	323,442
		その他の積立金	103,000
		次期繰り越活動収支差額	720,465
		純資産部合計	1,373,440
資産の部合計	1,780,560	負債及び純資産合計	1,780,560

事業活動収支計算書

単位千円

介護保険収益	279,235
就労支援事業収益	7,399
障害福祉サービス等事業収益	408,788
生産活動収益	550
経常経費寄付金収益	649
サービス活動収益計	696,621
人件費	380,810
事業費	91,863
事務費	57,938
就労支援事業費用	6,360
生産活動費用	562
減価償却費	60,550
国庫補助金等特別積立金取崩額	-9,929
サービス活動費用計	588,154
サービス活動収支差額	108,467
サービス活動外収支差額	-325
経常増減差額	108,142
特別収支差額	8,987
当期活動収支差額	117,129
次期繰り越活動収支差額	720,465



全国知的障害者関係施設長等会議に参加して

穴山の里 施設次長 大柴太賀吉

去る6月12日・13日の2日間にわたり東京国際フォーラムにおいて2,600名が参加し、知的障害者への国民の理解の推進に向けた活動を行うと共に、全ての障害者が社会を構成する一員として、その尊厳が重んぜられ、あらゆる分野への参加の機会が保障され、その尊厳にふさわしい生活を送ることが可能となる社会の実現に向けた活動を行うための方策を検討することを目的として開催された。

第1日目は全体会として、厚生労働省の障害福祉課長による行政報告があり、平成27年4月に障害者福祉サービス等報酬改定が実施されることや、同日完全実施される相談支援の状況と実施に向けたプロセス、虐待防止対策、就労支援などの課題について説明があった。

また、午後からは記念講演「日本知的障害者福祉協会創立80周年の軌跡」と、「わが国の障害福祉施策の在り方について」のフォーラムが開催され、今までの知的障害者福祉の歴史を再確認した上で、今後の福祉施策の方向性を聞くことができた。

第2日目は、分科会が開催され就労支援分科会に参加した。障害を越えて社会や市場に通用する商品作りを行っている会社社長の講演と、午後からは「知的に障害のある人達に対する就労支援の課題検討」と題したシンポジウムが行われた。

いずれも、障害者の就労支援での賃金アップや障害者が生きがいを持って就労できる支援の成功例を聞き、具体的な方法として企業との連携が必要と明言されていたのが印象的であった。

全国規模の会議に始めて参加し、貴重な経験をさせていただいたことに感謝すると共に、今後の施設運営の参考としたい。

穴山保育園児との交流会

6月11日穴山の杜のホールを会場に交流会を開催しました。この交流会には地域の更生保護女性会穴山支部の皆様も参加していただきました。あいにくの天候の為、室内での交流会となりましたが、穴山の里の利用者さん、保育園児の皆さんの笑顔があふれていました。

更生保護の方から「自分の孫と遊んでいるようで、日頃の疲れが吹き飛んだ。」と嬉しいお言葉をいただきました。

半日という短い時間ではありましたが、思い出に残る良い交流会を行うことができ、このような交流会を開催することによって地域との一体感が生まれ、今後の穴山の里の活動に対するご支援をいただけるものと考えております。

(支援員 成瀬 翼)



新任職員研修に参加して

支援員 黒部彩香

6月13日・14日にいこいの村あしがらで行われた東京都社会福祉協議会主催の新任職員研修に参加させて頂きました。

研修では、「支援者としてのビジネスマナー」、「本人中心の支援とは」、「被災地支援について」の3つの抗議に加え、グループワークを行いました。

この研修をとおして最も強く感じたことは、支援の方法の正解は1つではないということです。グループワークは、片麻痺の知的障害者Aさんが転倒したことをきっかけに、車イスを使用するのか今後の支援方法を考えるというものでした。講師からは、「本人の好きなウォーキングができるから独歩も正解。本人の安全が守れるから車イスも正解。」との話があり、大切なのは「この支援計画を立てたのは、このような理由からだ。」という根拠だと学びました。

また、福祉現場の新任職員同士で話をする中で、お互いに頑張って行こう! という気持ちを持つことが出来ました。今回の研修に参加させて頂きありがとうございました。

手芸班の園外活動報告

6月23日、小淵沢のスパティオ内の体験工房に行ってきました。いろいろな体験の中から染物の体験に挑戦してみました。染めるものは、帽子、Tシャツ、スカーフ等があり、参加した利用者さんの希望を聞いてスカーフの藍染と泥染めに決めました。

利用者さんも最初は上手にできるか心配の様子でしたが、講師のしぐさを良く見たり、聞きながら、花などの色々な模様を考えて、布を輪ゴムやクリップで模様の部分が染まらないようにとめました。

染め薬につけた後、水洗いと何回か繰り返して、最後にとめた部分はずして乾燥し出来上がりです。

考えていた時間より早く出来上がり、模様も意外性があった大満足の体験でした。（支援員 雨宮はる子）



レクリエーション大会開催

6月29日に保護者とのレクリエーション大会が開催されました。今回は次第達の老人クラブの方18名も参加していただき、全員で準備体操のあと競技開始です。

「ポール運び」は2人1組になり竹棒でポールを挟んで運ぶリレーです。落とさないように慎重に歩いていると「急げー」と声援が…。そこで慌ててポールを落としてしまうと、今度は「ゆっくりー」と声がかかります。昼食は青空の下でのお弁当。「外で食べると気持ちが良いね」と言って美味しいそうに食べている利用者さん。恒例のパン食い競争では、お目当てのパンにまっすぐ行きつけるようスタート位置を変える猛者もいて、みんな真剣そのもの。老人クラブの皆さんも「パン食い競争なんて何年かぶりだよ。」と興奮気味にお話いただきました。

参加していただいた皆さん、ご協力ありがとうございました。また、来年をお楽しみに!!(支援員 横山由里)



わ〜く

穴山の里だより

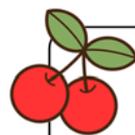
多機能型事業所 わ〜く穴山の里
〒407-0263 韮崎市穴山町4433-1
TEL: 0551-25-5866
E-mail: work@sip-shinwakai.jp



絶品!!
流しそうめん



職員手作りの流し台を使って
「流しそうめん大会」を行いました!!
皆、目が真剣!?
たくさん食べて、大満足でした。



さくらんぼ

7月9日・10日
北杜市明野町の宮沢農園へ
「さくらんぼ狩り」に行きました。
宮沢様のご厚意により大変おいしく
頂くことが出来ました。



穴山の杜だより

特別養護老人ホーム穴山の杜
〒407-0263 韮崎市穴山町 5390
Tel.0551-25-6100
E-mail : mori@sip-shinwakai.jp



『我々がやるべきこと！！』

介護部副部長 野澤佐知子

‘真の福祉を追及していこう’という法人のスローガンで今年度もスタートを切った。

そこで穴山の杜では、第1に改めて現在行われているユニットケアを見直してみることにした。本来ユニットケアとは何であるのか……。

ユニットケアは、利用者一人ひとりの個性や生活のリズムに沿ったケアであり、できるだけその人らしい生活が継続できるように支援するものであり、老人福祉法の基本方針では、『ユニット型特別養護老人ホームは、入居前の居宅における生活と入居後の生活が連続したものとなるよう配慮しながら支援していかなければならない』と謳われている。果たして我々は日々そのような支援を行っているのか、現在の体制で利用者に24時間のサポートができていないのか、見直さなければならぬことがある。

最初に職員の勤務体制に着眼し、5月から試行的に変更してみている。この体制は決められた職員の配置数の中で、いかに日中の職員数を厚くし、利用者の支援に当たれるか考えられもので、既に多くの施設では行われている。

次に24時間シートの導入である。これは利用者に今までの暮らしを続けてもらうような暮らし作りをするものである。利用者個々に暮らしは異なり、それぞれの暮らしに合わせサポートするので、その根拠になるものと言われている利用者中心の生活であり、職員の勤務や業務の流れに沿った生活ではないことが明確にされる。これについては、かなりの時間を費やすことが予測され、またその人それぞれの生活リズムであるので、かなりの情報量が必要であり、安易にはできないものと感じているが、是非完成させるよう努力をしていきたいと思う。

それ以外に科学的介護実践ということも新たに取り組んでいる。これまでも水分摂取やオムツ外しには、施設として積極的に取り組んできたものの、きちんとしたデータ取りは行わずに進められていた。そこで今回介護力向上講習会へ職員2名が参加し、厳しい講習を受け、それに沿って実践している。現段階は、水分1500ml摂取と次段階として要介護度4・5の方の歩行へと展開を進めている。

この科学的介護実践というのは、『自立支援』を実現するため行われているものであり、そこでは高齢者の自立支援介護とは、ADLを自立させ、認知症の症状を消失させること、そしてそれを維持することをいう……と述べられている。基本的なケアの項目は、水分・食事・排便・運動であり、水分摂取がとても重要であることを学んでいる。水分1500ml摂取することにより、日中は覚醒、夜間は良眠となり、排便がトイレででき、オムツゼロの介護となり、活性化して歩行もできるようになり、世間的には問題と言われている行動も無くなるというものである。

現在この講習会に参加している18施設中当施設は、オムツ使用率ランキングが5位であり、排便場所が『ベッド上』率が21.6%で5位《この数値が少ないと、トイレでの排泄が出来ているという理解》 排使用具『オムツ』率が5.9%で1位《この数値が小さいとオムツの使用がないという理解》となっている。それが講習終了の1年後はどのような結果となるのか、我々の腕の見せ所であり、興味津々である。

これまでどちらかというと受け身で進められてきた介護の世界であるも、現在は利用者の自立性とQOLの向上を支援し、科学的で専門性の高い介護が求められている。利用者にとっての生活とは何か、どのような生活が楽しいのか、生き生きと暮しができるにはどのように支援していけばよいのか、日々模索し、これでよいのかと葛藤しながら介護している。

穴山の杜も丸7年目に入り、大きな過渡期を迎えている。我々職員の質が高く変わらなければ、利用者の生活も変えることができない。これまでのように単に変化ないことが良いことと捉えるのではなく、変化を恐れず、利用者にとっての暮らしとは何かを追求しながら、プロとしての技術を高めていきたいと思う。利用者が生き生きと暮し、そこを訪れるご家族の足も軽やかで、我々職員も生き生きして働く、そんな輝いた関係を築いていきたい。



～頑張っています！言の葉研究会～

平成26年1月末、ある入居者の担当者会議の際、入居者様から「好きな事を続けていきたい。」と言われたことをきっかけに、短歌がご趣味と聞いていた入居者2名をお誘いし、職員2名計4人で発足しました。初回の集まりでは、会の名を「言の葉研究会」とし、活動の決まりを決めました。2回目以降は、詠んだ短歌を持ち寄り、会員の入居者様を中心に感想を述べ合っています。毎月1回、会を開いていますが、6月に開いた5回目の会では、入居者様5名の参加がありました。また、作品を提出されなくとも参加され、感想を述べ盛り立てて下さる入居者様もいらっしゃいます。

入居者はお好きな短歌を楽しまれ、職員も慣れぬ短歌を作り逆に利用者様から励まされております。このように入居者、職員が一体となって楽しい時間を過ごしている「言の葉研究会」です。

入居者様の作品7首をご紹介します！



山歩き 津金の山に行きたいな
友達がいる ちがいない

暮ら中に 走る列車は 貨物の客車か
きき耳たてる

藤色の さくら色の 好きです。 此年色は好きで無い

どうも 響く列車の音聞いて 眠りにつづ 隣は楽しむ

道林の 前に広がる 日のれは 風になびく 新緑に 映える

毎日ね良かったと思ふこと 今度来る時 合は明日も

新聞と毎日読むのは習慣 こんなことがあつたんたとか

感謝録

(平成26年3月16日から平成26年6月15日)

～ご寄付を頂きました～ (敬称略)

ありがとうございました。感謝いたします。

雨宮 賜・藤田 元・臼井義和・伊藤紀元・堀内陽雄・小林榮子・白倉美鈴・長井朝美・津金良子・岩本富子・長谷川博雄・島津徹雄・大河原 譲・石澤應彦・日本郵便株式会社・穴山町さくらまつり実行委員会

～ご協力を頂きました～ (敬称略)

☆ボランティア

千野公洋 (太鼓)・阿部光雄 (歌謡)・島津泰子・長坂泰子・小林秀子・細窪房美 (歌謡協力)・田中康子 (絵画指導) 穴山の里保護者会・更生保護女性会穴山支部・田崎悦子・田崎門下生・初花会 (保坂・鮎川・河西・鷹野・藤巻・山口・大矢・仲田)

第29回 地域ふれあい祭り 開催

日時：8月2日(土) 17:00～20:00

場所：穴山の杜 芝生広場

信和会では今年も例年通り「夏祭り」を開催いたします。関係者の皆様をはじめ多くの地域の皆様楽しんでいただけるような充実したプログラムを企画しております。

★★★プログラム予定★★★

ミニコンサート・穴山太鼓・打ち上げ花火
空手演舞・フラダンス披露・各事業所発表

★★★出店★★★

もちろし・カキ氷・ポン菓子・焼きそば・きゅうり串
フランクフルト・焼き鳥・じゃがバター・わた菓子
各種飲み物

第1回 穴山町七夕祭りが開催されました

7月7日、昨年建立した穴山町伊藤窪出身の榎藤はなよさんの歌碑をまえに、穴山の里、穴山保育園、葦崎北東小学校3年生の皆さんが参加をして七夕祭りが行われました。

あいにくに天気ではありましたが、みんなで歌った「たなばたさま」はきっと彦星・織姫にとどいたことでしょう。



訪問録

(平成26年3月16日から平成26年6月15日)

☆教育実習 (敬称略)

◎聖徳幼児専門学校

福永優花・原 夏奈子・栗原梨菜

◎山梨学院短期大

塚越蘭菜・相沢ひかり

◎彰栄保育福祉専門学校

内川美咲・林 千尋

◎帝京福祉専門学校

雨宮愛理・今井敬也・永田 綾・深沢知香

八巻怜美・土田彩加

◎山梨県歯科衛生専門学校 (刷掃指導)

☆体験実習 (敬称略)

◎わかば支援学校高等部

戸島翔太

◎かえで支援学校

丹澤一貴

◎葦崎東中学校1年3組

☆施設研修 (敬称略)

◎富士聖ヨハネ学園

佐藤早苗・三浦清花

☆施設見学 (敬称略)

◎優和福祉専門学校

就職フェア・就職ガイダンス に参加します

社会福祉法人信和会では、一緒に働く皆さんを募集しています。

生活支援員・介護士などで就労時間等お気軽にご相談下さい。

又、下記のガイダンスに参加を致します。

7/30 福祉の就職総合フェア

13時～ アピオ甲府

9/3 合同就職ガイダンス in 甲府

13時30分～ 県立図書館



編集後記

全国的に異常気象の影響で災害が発生しており、集中豪雨や暑い日差しが照りつけ猛暑日も記録する季節です

服装や食べ物、特に水分を十分に摂取し体調管理には気をつけて下さい。